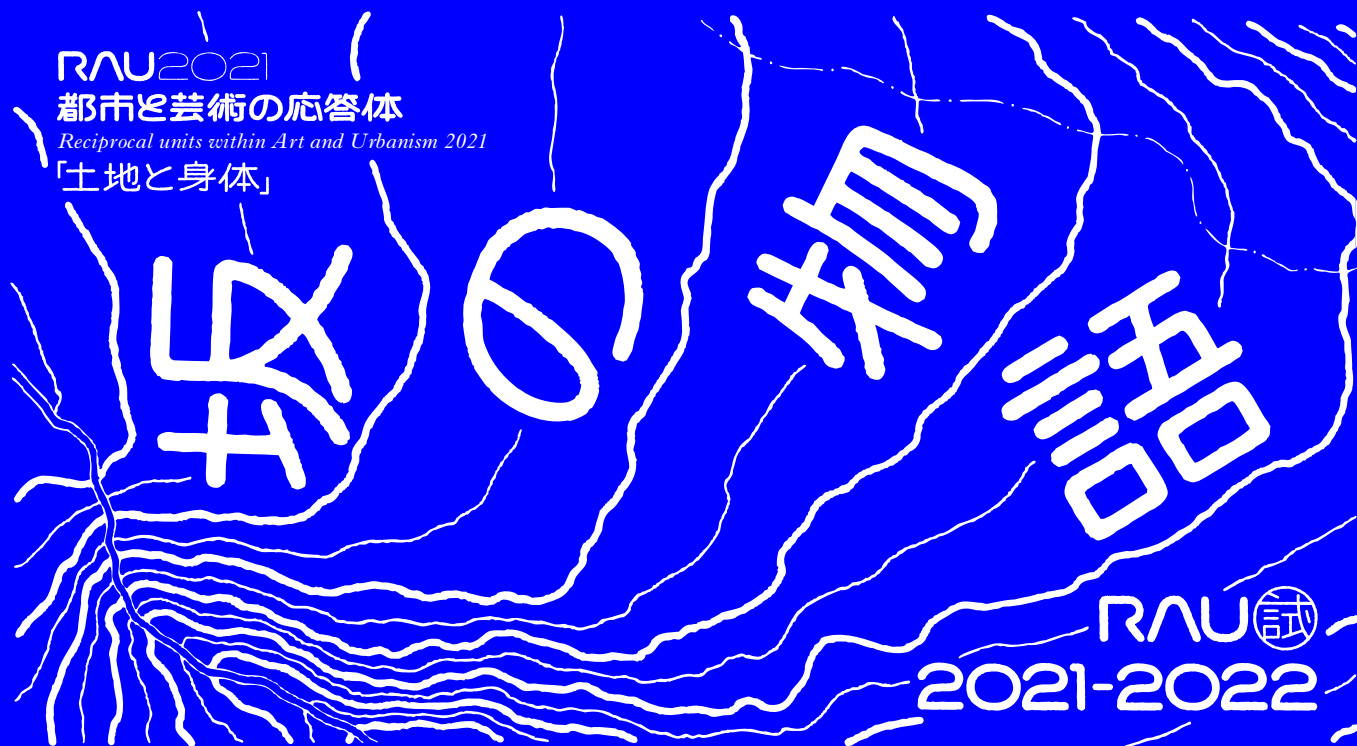


平素より大変お世話になっております。

横浜国立大学「都市と芸術の応答体2021」が主催するオンラインイベント『RAU試 2021-2022』開催のお知らせのニュースリリースを送付致します。貴媒体にてご取材、情報掲載などご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ：山本さくら（広報）rau.ynu@gmail.com



令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム

都市と芸術の応答体2021 「土地と身体」

ワークショップ & ビューイング & レクチャーのお知らせ

横浜国立大学がゲストアーティストに三宅唱（映画監督）柴崎友香（小説家）を迎えておこなっているプログラム：都市と芸術の応答体（RAU）の、本年度の活動を総括するイベント「RAU試 2021-2022」を開催します。

RAUは都市と芸術の根本的な関係を考えるため、2020年に藤原徹平（建築家）平倉圭（芸術学）の共同主宰により立ち上げられました。

2月19日（土）、23日（水・祝）、27日（日）の3日間にわたってワークショップ&ビューイング&レクチャーを実施します。今年一年間議論と創作を重ねてきた「土地と身体」「私はどこにいるのか?」「土地と身振り」の3つのテーマを振り返りながら、「坂の物語」について3日間で作品の試作と議論の仮構築をおこないます。

三宅唱（映画監督）も映画祭が開催されているベルリンの地から参加予定です。

ディレクターやゲストだけでなく、全員で試し、全員で考える、RAUというラーニングコレクティブ（学びの共同体）へのオンライン参加（配信視聴）の機会を設けました。奮ってご参加ください。

概要

2020年6月に始動した「都市と芸術の応答体（以下、RAU）」は、横浜国立大学主催のオンラインプログラムです。世界各国から選抜された42名のメンバーとともに、複合的な課題が折り重なる都市で生まれる芸術を実践の内側から探求します。文化庁による令和3年度「大学における文化芸術推進事業」の採択を受け、本プログラムは2年目を迎えました。

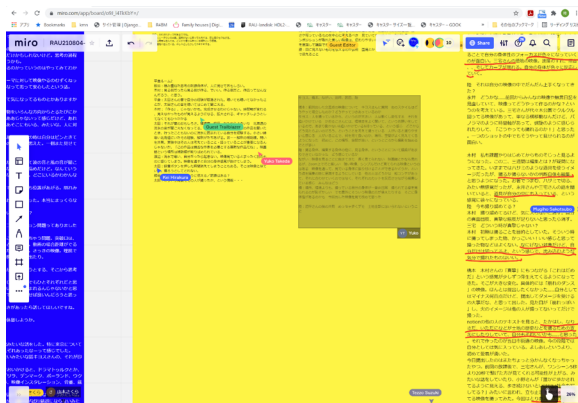
今年度からRAUの参加者を受講生ではなくメンバーと呼び、ゲスト、ディレクター、メンバーが互いに触発しあうラーニングコレクティブとしての活動を目指しています。

RAUでは、①課題を受けて作品をつくり、メンバー間に共有、②ゲストを中心にレビューとディスカッション③レビューを受けて再制作、という相互的プロセスによって実践のなかから生まれる気付きや思考を積み上げています。今年度は「土地と身体」というテーマのもと、前期は昨年度から引き続き映画監督の三宅唱氏と映像のワークショップをおこない、後期は小説家の柴崎友香氏とテキストのワークショップを実施。前期と後期の転換期には、習作を通じた議論の実験「RAU試」をオンサイトでおこない、共同的な思考と実践が深まっています。

今回、秋の「RAU試」を引き継ぎ、令和3年度の議論を追いながら令和4年度の活動に向けた試作と議論をおこなう約2週間のワークショップ「RAU試 2021-2022」をメンバーと実施します。

そのうち、ポイントとなる計3回のミーティングを、オンラインで中継します。

RAUの活動に関心を持たれている方、来年度以降参加を検討されている方には、時間と密度をかけて積みあげて来たRAUの議論を垣間見れるオンライン中継となります。単発でも視聴可能ですが、3回通しで視聴することをおすすめします。



miroを主に用いて各地のメンバーとオンラインで活動している。



メンバーの作った写真、映像、テキストを介して議論する。



「土地と身体」の関係を考えるWSをオンサイトで実施した。



映像を中心に様々な形で、集団での制作・議論を試している。

日程

2月10日(木) 12:00

招待状(課題「坂の物語」)の公開(※HP掲載)

メンバーが取り組む課題をHPでRAU試への招待状として事前公開します。

招待状へ応答した提出作品を題材に、初回ミーティングが行われます。

※2月10日の課題公開時に、HPもリニューアルオープンいたします。今年度作られた作品の一部や、RAU2021の前期を振り返る鼎談記事【ディレクター・ゲストアーティスト鼎談「土木と詩」から「土地と身体」へ】を公開予定です。

2月19日(土)

ミーティング1:

招待状への応答ビューイング&ディスカッション

ディレクター藤原徹平と平倉圭、ゲストアーティスト三宅唱と柴崎友香、参加メンバーによるビューイング&ディスカッションの開催。招待状の課題へ応答した映像を見て、ディスカッションを行います。

2月23日(水・祝)

ミーティング2:

レクチャー&ディスカッション「物語としての坂」

作品制作のヒントとなる、「坂」についてのディレクター、ゲストアーティストからのレクチャーを行います。

登壇者：(18:30 開場)

19:00-19:20 藤原徹平

19:20-19:40 平倉圭

19:40-20:00 三宅唱

20:00-20:20 柴崎友香

20:20-20:30 休憩

20:30-22:00 ディレクターとゲストアーティストによるディスカッション

2月27日(日)

ミーティング3:

再制作を受けてレビュー&ディスカッション

ディレクターとゲストアーティストと共に完成作品をビューイングし、レビューとディスカッションを行います。

来年度のRAUの活動テーマも合わせてディスカッションされます。

詳細

タイトル 「RAU試 2021-2022」

配信スケジュール 令和4年2月19日（土） 18:30開場 19:00開演 22:00終了
令和4年2月23日（水・祝） 18:30開場 19:00開演 22:00終了
令和4年2月27日（日） 18:30開場 19:00開演 22:00終了
※30分程度の延長あり

視聴費 RAUディレクター 藤原徹平 平倉圭
RAU2021年度ゲストアーティスト 三宅唱 柴崎友香
※全日程同じ登壇者です。

視聴費 無料

視聴申込 peatixURL
<https://rau2021-2022.peatix.com>



申込締切 ZOOM ウェビナー参加 イベント日程30分前まで

配信について ZOOM ウェビナーによる配信。Peatixで予約後に配布されるURLで入室して頂きます。

運営体制

主催 国立大学法人 横浜国立大学
助成 令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業
事業統括 藤原徹平（建築家 | 横浜国立大学 Y-GSA 准教授）
事務局 『都市と芸術の応答体2021』事務局
住所 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 建築学棟4階
メール rau.ynu@gmail.com（担当：染谷・山川）
HP rau-ynu.com
twitter [@RAU_YNU](https://twitter.com/RAU_YNU)
instagram [@rau2021_yard](https://www.instagram.com/rau2021_yard)
ディレクター 藤原徹平 平倉圭
プログラムマネージャー 染谷有紀 山川陸
プレス・広報 山本さくら
グラフィックデザイン 鈴木哲生



ディレクター 略歴



藤原徹平 FUJIWARA Teppei

建築家

1975年横浜生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSA准教授。フジワラテツペイアーキテクトラボ主宰。一般社団法人ドリフターズインターナショナル理事。

横浜国立大学大学院修士課程修了。建築や都市のデザイン、芸術と都市の関係を研究・実践している。主な作品に「クルックフィールズ」、「那須塩原市まちなか交流センター」、「京都市立芸術大学移転設計」、「ヨコハマトリエンナーレ2017会場デザイン」、「リボンアートフェスティバル2017会場デザイン」など。受賞に横浜文化賞 文化・芸術奨励賞 日本建築学会作品選集新人賞など。



平倉圭 HIRAKURA Kei

芸術学研究者（近現代美術、パフォーマンス、映画）

1977年生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSC准教授。

国際基督教大学卒。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（学際情報学）。芸術の制作プロセスにはたらく物体化された思考を研究している。最近はダンス研究を少しずつ。著書に『かたちは思考する—芸術制作の分析』（東京大学出版会、2019年）、『ゴダールの方法』（インスクリプト、第二回表象文化論学会賞受賞）、『オーバー・ザ・シネマ 映画「超」討議』（共著、フィルムアート社）ほか。

ゲスト 略歴



三宅唱 MIYAKE Sho

映画監督

1984年北海道生まれ。一橋大学社会学部卒業、映画美学校フィクションコース初等科修了。主な長編映画に『ワイルドツアー』（2018）、『きみの鳥はうたえる』（18）など。最新作はNetflixオリジナルドラマ『呪怨：呪いの家』（20）。他に鈴木了二との共同監督作『物質試行58：A RETURN OF BRUNO TAUT 2016』（16）やビデオインスタレーション作品として「ワールドツアー」（18/山口情報芸術センター[YCAM]との共作）、「July 32,Sapporo Park」（19/札幌文化芸術交流センター-SCARTSとの共作）などを発表している。



柴崎友香 SHIBASAKI Tomoka

小説家

2000年に『きょうのできごと』を刊行、同作は2003年に映画化。2006年『その街の今は』で織田作之助賞大賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、咲くやこの花賞、2010年『寝ても覚めても』で野間新人文芸賞（2018年に映画化）、2014年『春の庭』で芥川賞受賞。街の来歴や場所の過去と人の記憶をモチーフにした作品を書いている。ほかに『百年と一日』『わたしがいなかった街で』『パノララ』『よう知らんけど日記』など。